

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600134		
法人名	有限会社 ライフ・ワン		
事業所名	グループホーム スワン		
所在地	埼玉県深谷市東方2873-5		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 16 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念を「ゆっくり・一緒に・楽しく」と掲げており、一人一人が自分のペースで日常生活を送っている。9人という小さな施設で利用者様同士が助け合いながら生活しており、職員とも家族の様に接してくれる。食事は3食手作りで提供しており食べたい物を利用者様がリクエストしてくる。今の現状を維持しその人らしさを尊重しケアをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな田園地帯に立地している、郊外型の事業所である。1ユニット9名の利用者が共同生活をしている。玄関や事務室には、事業所の理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」を掲げている。明るいうららかな雰囲気ではBGMがながれ、職員と楽しく会話をし、ピアノを弾く、歌を歌うなど、それぞれ一人ひとりのペースに合わせ、過ごしている。職員は、家族的な雰囲気の中で、常に利用者の方に寄り添い、コミュニケーションを大切に支援している。食事は、三食共に、職員の手作りで提供している。献立は、職員が利用者の希望を取り入れ、近所の農産物販売所に利用者と同様に、新鮮な野菜や旬の物を購入している。キッチンでは、出来る人には調理のお手伝いもお願いしている。また、職員同士、家族との関係も良好であり、退職する職員がいない点も安心して任せられる体制である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり・一緒に・楽しくを理念に掲げそれに基づき支援している	「ゆっくり、一緒に、楽しく」を理念に掲げ事務室や玄関に掲示している。リビングでは、のんびり話をする人、ピアノを弾く人、ソファでくつろぐ人もいます。誰が訪れても、のんびりした、雰囲気である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナの影響の為、できていないが自治会には加入している	自治会に加入している。コロナ禍で、行事等には参加できていないが、ゴミ出しをしたり、近所のお寺や神社に散歩して、近隣の人と挨拶など交わしながら、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響でできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響のためお便りの郵送になっていますが実践状況を報告している	コロナ禍で、対面での運営推進会議は開催できていないが、書面開催をしている。身体拘束廃止、ヒヤリハット、事故報告などを、市役所の出先窓口、自治会長、民生委員、家族などに、郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方もいるので書類提出など関係を築いている	運営推進会議の議事録は、郵送している。コロナ禍で、マスク、手袋など無料の配布があった。また、コロナに関する情報交換をしたり、指示をもらい、研修案内には、ウェブでの研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないのは当然であるが、玄関の施錠は安全を守る上で内側から施錠しているが、利用者様も開けられるようになっていく	身体拘束廃止委員会は、2か月に1度、全体会議の中で、開催している。身体拘束はないが、「ちょっと待って」等のスピーチロックは少なからずある。別の職員を呼ぶなどして、助けを求めよう、注意喚起している。玄関だけは、安全を優先して施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待はしない、変化を見逃さないという意識を持ち支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の話題に一部取り入れ話し合う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容を説明し理解していただき最後に記名捺印をしてもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションをとり要望など気楽に話せるようにしている	家族の来訪時に、意見や要望を聞き取っている。コロナ感染ピーク時には、玄関でガラス越しに対応していた。利用者の様子を聞くことが多い。月1度お便りを発信しているが、写真をふんだんに入れて、利用者の日々の生活をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の問題点や気づいたことは連絡ノートに記入し解決に取り組んでいる	全体会議の中で、さまざまな意見や要望が出される。利用者の支援に関することが多い。イベントについても、いろんなアイデアが出され、皆で検討している。また、法人本社の社長が、ほぼ毎月来訪して職員と面談し意見を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすくするために勤務時間等、考慮し年二回の賞与は正社員、パートともに支給している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に介護に関する情報を共有し会議等で話あう		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と意見交換を行なう		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント表に基づき家族や本人の要望を聞き可能な限り応えるようにし安心して暮らせるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事等、内容を聞き信頼関係構築に努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族が求めている事を可能な限り対応し不安のない生活が送れるよう支援する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の信頼関係を構築すると共に信頼関係も築く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と何でも話せる関係を築き家族が悩む事がないように支える		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響でできていない	コロナ禍でも、家族と一緒に床屋やお墓参りに行っている利用者もいる。コロナ禍以前には、桜のお花見や回転寿司等の外食にも行っていた。コロナが収束したら、再開を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを図れるよう支援しレクリエーションや行事も全員参加ができる雰囲気を作る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から連絡があった場合は相談に応じています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画の作成時に本人及び家族に要望を聞きそれに合わせた計画書の作成	新規利用者については、実地調査を行い、生活歴、趣味、嗜好、どのように暮らしたいか等の聞き取りをしている。入居後は、キメ細かく会話を交わして、仕草や表情からも、願いや希望をくみ取るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活状況を把握し生活指導をする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に無理のないようにお手伝いや、レクリエーションや行事を行ない心身機能向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室に担当者を割り振り日常生活の把握をし情報を共有しより良いケアを実践する	全体会議の中で、ケアカンファレンスを実施している。職員全員参加で、介護記録や申し送りノートに基づき利用者の状態を話合っている。また、状態に変化があれば、提携医からも、意見や指示を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者別に日中、夜間の様子を記録し職員間で状況を共有し今後の介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスに限らず変化に富んだ生活をしていただくよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお寺に散歩に行き参拝者や近所の方と交流していたが新型コロナの影響で少なくなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通りのかかりつけ医に受診へ継続も可能で、施設主治医へ変更が希望であれば診療情報提供書の提出により変更します	月2回訪問診療があり、薬剤師や看護師も同行している。希望者には、訪問歯科が来ている。精神科や皮膚科などの通院は、家族が同行している。なお、令和5年4月から、24時間対応の訪問診療医に変更予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時の場合は主治医に連絡相談し指示を貰い対応する		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に主治医と連携を密にし急変時の場合に入院できるような関係を築き情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い家族と施設の協力体制を作り家族の意向も十分に配慮し情報提供を行わない	契約時に、どこで最期を迎えたいかの確認をしている。重度化してきたら、家族、事業所、提携医が連携を密にして、事業所で出来ること、出来ないことを説明し相談をしている。看取りの経験があり、職員は落ち着いた対応が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には緊急対応策が出来るよう周知徹底をする		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練をし防災に関する意識を高める	避難訓練は、年2回実施しており、通報、玄関先への誘導、消火の訓練をおこなった。うち1回は夜間想定で実施している。近隣住民の避難訓練参加もあり、地域交流にも役立った。備蓄品は、飲料水、乾パン、衛生用品などである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生き方や暮らし方が異なるのでその人らしく、その人に合った生活ができるよう言葉掛けや生活指導に努める	言葉遣いに気を付けている。たまに、人格を尊重しない言葉かけがみられることもあり、その都度注意喚起している。お風呂やトイレのドア閉めやノックを励行している。書類は鍵付きロッカー、パソコンはパスワード管理をしている。	親しくなりすぎて、年上の利用者へ対等な話し方にならないよう、接遇マナーの研修等を検討し、人格を尊重した対応を徹底することを希望します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本位に物事を考え可能な限り自己決定していただけるように努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで日常生活をしていただき無理やり強制は行わない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿い衣類の選択をし、散髪も定期的に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい食材や食べたい食事のリクエストを取り入れいる。下膳は利用者様をお願いをしている	食材は外注で届いている。野菜や米は、職員が地元の物を購入している。職員が献立を決め、利用者も手伝いながら、調理している。正月のおせち、雛祭りのちらしなどのイベント食もある。利用者の意見を取り入れた、カツ丼、寿司等の出前もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないように考慮し個別に食事量、水分量をチェックする		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを援助し口腔内の清潔を保ち必要に応じ訪問歯科にかかる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行ないパッドやパンツを汚さないようにケアしている	排泄チェック表を作成して、対応している。朝昼晩の食後に、トイレ誘導している。夜間は、10時、2時、5時に声掛けして、トイレ誘導やパッドの交換をおこなっている。また、ポータブルトイレを使う人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便チェック表があり、水分量や食事などで調節している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めてあるが、本人都合で日にちの変更等ができる	入浴担当がいて、週2回入浴している。日時は決まっているが、変更も可能である。入浴嫌いな人もいるが、日にちを変えたり、言葉掛けを変えたりして対応している。入浴剤を入れて、温泉気分で職員と会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後は昼寝時間ですが、無理にしないでいいので自由に過ごしていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全て職員管理なので毎回服薬援助をし誤薬や飲み忘れがないように支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、洗濯たたみその人に合った役割をしていただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響でできていない	天気の良い日は、近所のお寺や神社に散歩に出かけている。庭に出て、ひなたぼっこをしながら、外気浴を楽しんでいる。コロナ禍で、遠出は出来ていないが、近所の農産物販売所に、職員と一緒に、買い出しに行っている。また、家族が来て、食事や買い物に行く人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを預かり施設管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるようになっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るさや温度を調節し、安心して過ごせるよう支援している	リビングは、明るく、ゆったりとしている。食堂からは、中庭も見える。エアコン、テレビ、加湿器が備え付けられている。壁には、季節ごとに、職員と一緒に制作した、塗り絵、ちぎり絵、折り紙等が飾られている。掃除は職員が行い、換気も定期的におこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室のドアが閉まるようになっており個人の空間も作れるおうになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ってきていただき使えるようにしている	エアコン、タンス、ベッド、カーテン、照明は、備え付けられている。自宅からは、在宅の延長で、使い慣れた物、趣味の物など持ち込んでいる。掃除は、職員がおこなっているが、出来る人は一緒に参加している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置してあるので各自の出来る力を使ってもらえるように見守りをしている		